

かわからない、もっと注意しような、と二人で話し合ったのは言うまでもない。

5月12日(木) 霧雨 山川港

由美子、今のところ異常なし。夕べ、<佳苗丸>の船長がアジとタイの刺身を作ってくれた。タイのアラ汁もいい味だ。車だけでなく、色々なことで沢山のの人に世話になっている。本当に有り難いと思う。昨夜は古木氏、今日は下山氏が来てくれ話に花が咲く。

5月13日(金) 晴れ 山川港→枕崎港

今日からは未経験の海域だ。期待と緊張、半分ずつである。9:00出港。開聞岳をかわすまでは波も風もきつくなかったが、鹿児島湾を出てからはなかなかの海象になってきた。風は北西、ということは真正面からの風ということなのだ。風速約10メートル。波も大きくなり、おまけに逆潮。最悪の状況である。何度もタッキングを繰り返し16:30やっと枕崎港に入る。27マイルを7時間半もかかってしまった。今日は疲れたぞ。ネコもそんな表情である。

5月14日(土) 晴れ 枕崎港→野間池港(笠沙恵比寿)

今日も風、波ともきつい。昨日と同じ状況である。早々に帆走をあきらめ機帆走に切り替える。14:30野間池港、笠沙恵比寿(リゾートホテル)のポンツーンに着岸。噂通りとてもいいところだが、料金だけは良くないのである。係留料は無料だが、艇長(船の長さではなくキャプテン)2000円、クルー660円。噂では2日目からは艇長分の1000円だけでいいと聞いていたが、今年からシステムが変わったとかで2日目からも同じだということだ。電気を使うとプラス500円。したがって(意地でも)電気は使わず、明日出港することに決定。「うわさを信じちゃイケナイヨ!」ということ。

5月15日(日) 晴れ 野間池港→上甕(かみこしき)島 中甕(なかこしき)港

中甕港を目指し出港。波も穏やか、風も適度。のんびり帆走するにはベストコンディションである。12:30入港し、<幸漁丸>祝原氏の隣に檣着けする。「魚あるか?」と聞かれたので「無い」と答えると、早速アジの刺身と「背切り」を作ってくれた。「背切り」とはアジを骨ごと細かく切り刻んだもので、ツウにはたまらない食感だそうだが、私としては骨がちょっとうるさい。夜、祝原氏、地元の電気店の石原氏に甕島の方言をレクチャーされながら飲む。アジも旨いがイサキがなかなかの味である。

5月16日(月) 曇り 中甕港→熊本県 牛深港

7:30出港。風弱く、セールは上げているがほぼ機走である。視界が悪い。10:00頃から風が上がり帆走を始める。オケラネット長谷さんと久しぶりにコンタクト。13:30入港。天草諸島の南端である。港奥に檣付けで舫う。キビナゴの刺身を初体験。あっさりした味。上品と言えは上品だが元来下品な私には物足りない感じだ。



5月17日(火) 晴れ 牛深→崎津港

天草諸島下島の西岸の高浜港に向け7:00出港する。これからは海岸線の出入りが複雑で大小様々の島が多い海域である。フルセールで快走。波が小さく、艇速は5ノット。気持ち良く帆走していたが崎津港手前でいきなり風が強まる。このあたりが潮どきと思い急遽コースを変更し崎津港に向ける。奥が深く、入り組んだ湾である。干満の差が激しいので適当な係留場所が見当たらない。漁協に指示をあおぎ、私設のポンツーンに着けさせていただく。入港してからわかったことだが、ここは近年観光地になりつつあるとのことだ。港のすぐそばには函館のカトリック教会によく似た天主堂も建っている。そして例のごとく近くには土産物屋と呼び込み。これも函館と似ているが、これがなければもっといい雰囲気になると思うがね、函館の元町限界も含め情けなく感じてしまう。

5月18日(水) 晴れ 崎津港→長崎県 長崎港

早朝、素潜りで船底のチェックをする。ペラにホンダワラが絡んでいたほかには異常は見られない。例に如くカレーライス朝食を済ませ、7:30出港。朝霧が立ち込めている中を機走する。濃い霧も次第に晴れ、東よりの風が強まり思いがけず距離が伸びている。野母港の予定を変え思い切って長崎港まで走ることにする。軍艦島を左に見て長崎湾へ。15:00港奥の「出島ヨットハーバー」に到着する。

